



社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
T E L (042) 735-2220
F A X (042) 736-6374
HP:tsurukawa-gakuen.com

新年明けまして
おめでとーございませう
社会福祉法人つるかわ学園
理事長 廣本 肇

いまが未来を
つくりませう。
あなたのいまの
生き方が
大勢の誰かの未来に
つながっています。

日野原重明



皆さま、良き新年をお迎えですか
明けましておめでとーございませう。

いつものように年が改まりますと
目に映るすべてのものが清々しく感
じます。

松下幸之助氏は著書「道をひらく」
の中に「日々は新(ひび)これあらた
なれば、すなわち日々是好日(ひび
これこうじつ)」という言葉を残し
ておられます。

「日々は新」という言葉は、ただ
それだけで引用されて一般化され

ていますがその中身はあまり目にし
ません。誌面を借りて全文をご紹介
いたします。

「年が改まれば心も改まる。心が
改まればおめでたい。正月だけがめ
でたいのではない。心が改まったと
き、それは、いつでもおめでたい。
きのうもきょうも、自然の動きには
何ら変わりはない。照る陽、吹く風、
みな同じ。」

それでも、心が改まれば、見るも
の、聞くものが、みなあたらしい。
年の始めは朝起きたとき。年の始め
がおめでたければ、朝起きたときも
同じこと。毎朝、心があらたまれば、
毎日がお正月。あらたまった心には
すべてのものがおめでたい。きのう
はきのう、きょうはきょう。きのう
の苦労をきょうまでもちこすことは
ない。「一日の苦労は一日で足れり」
というように、きょうはきょうの運
命が開ける。

きのうの分まで背負ってはいられ
ない。毎日が新しく、毎日が門出で
ある。日々は新なれば、すなわち日々
是好日。素直で謙虚で、しかも創意

に富む人は、毎日が明るく、毎日が
元氣。さあ、みんな元氣で、新しい
日々を迎えよう。」

一月、二月は寒さたけなわ、それ
こそ小寒から大寒へと移ります。し
かし、寒い風の向こう側に早春を予
感させるものがあります。年賀状は
「春」を歌い言葉に綴っています。

灰色の雪雲にどんよりと覆われた
空に、世界は枯果れてたように見え
ますが、この瞬間、植物たちは凍て
つく地中や冬木立の枝先で芽吹く力
を育んでいるのです。

富士山の麓、山の上の森の中で住
んでいますと、時々、昔、子供の頃、
確か見たことのある虫を久しぶりに
見るとか、野鳥がすぐそばまで来て
いて用心深くしていないとか。辺り
一帯が禁猟区で野鳥の囁りに命の営
みを見せられるのです。自然の美し
さと厳しさの同居している風景に感
動させられる日々があります。

富士山をみながら季節の変化を見
ていますと、人間はこの自然の恩恵
意を受けながら生きているのだとつ
くづく思うのです。

自然に逆らい、自然を壊し、地球
の温暖化に警鐘を鳴らされているの
を承知しながら、公害、汚染を繰り返
し、いくつのお灸をされても、
もっともつとを求め、文明文化の贅
沢三昧に明け暮れているのを残念に
思うのです。

この世紀になっても、まだ人間が
人間を殺す戦争をして、たくさん
屍、たくさん難民を流浪させてい

るのが悲しいのです。あの人を殺す
武器を作る金を平和のために使った
ら、飢える人たちは地球からいなく
なるのです。

世界から戦争がなくなったら、人
間は何をするのでしょう。わくわくし
ながら、そんなことを考え、正月と
いつ時間をほんやり昼寝をしました。

昭和三十一年(一九五七)、二十四
歳の若者が今年、八十三歳になりま
す。福祉の道、それも知的障害の人
たちとの年月を歩いた私ですが、あ
の時、障害者の母親から言われた「親
亡き後」のその課題は、今も解決さ
れないまま五十八年が経っています。

時は流れ、制度や法律も変わり、
その対応も変わっていますが、私の
心の中では「そうじゃないだろう」
と言う不満状態で残されたままな
のです。ほんやりと昼寝しながら脳
の片隅から、またやるんですかと問
いかけてくるんです。

駆け出しの時代から支援する側の
能力と技量の進化はこれを第一義と
して、限らない失敗の数々を学習と
しながら、いつも頭から離れず葛藤
してきました。

生きていく間にどれだけの処に迎
り着くのだろうかと諦めずに格闘を
今年も繰り返すはずだ。

慣れていくことの怖さ、慣れてい
ないことの怖さ。これがかかえなが
ら、いつも手放してはいけないこと
は利用者が優先されてしかるべき日
常を一途に守れる施設でありたいと
約束できるこの一年にしたいです。



年頭のご挨拶

つるかわ学園施設長 丸山 文弘



皆様、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

さて、昨年世界をいたるところで様々なことがありました。シリアでの日本人の殺害事件、ロシア民間飛行機の爆破事件、パリの同時多発テロ事件等々……。日本においては、大雨による河川の堤防決壊などなど……。地球上の様々な地域において、多くの人命が失われました。思い浮かぶのは、どうも気持ちが悪くなる話題ばかりのようです。

新年を迎えるに当たり、本年が（未来永劫に）誰にとっても平等に、平穏無事で、明るくかつ楽しい話題にあふれかえることを望まずにはいられません。

平和な社会においてこそ、福祉は発展していくものだと思います。障がいがある方もない方も共に楽しく暮らせる社会にしなければいけないと、強く思います。

つるかわ学園では、というよりも全国的な問題となっていますが、急速に高齢化がすすんでいます。実年齢もそうですが、それよりも、肉体的

な高齢化です。体の内部に様々な病気等の問題を抱えたり、認知症を早期に発症される方もいらっしゃると思います。この問題については、法人全体をあげて取り組まなければいけない課題となっています。ここでは、高齢者の介護施設などとの連携も視野に入れながら、行動しなければいけないと考えています。

また、同様に大きな課題があります。つるかわ学園の現在の居住棟は建設から二十年以上が経過し、内部に大分不具合が出てきています。東京都に対して、国の大規模修繕の補助金を使えるように申請中ですが、何とか補助金を出していただき、大規模修繕を実行しなければいけません。

どうぞ本年もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



本年もよろしくお願ひいたします。

東京都町田通勤寮長 三階 広明



いよいよ、この4月から民間移譲により、つるかわ学園が設置する「町田通勤寮」の運営が始まります。形としては「新規事業の開始」となり、様々な事務手続きが必要となるためその準備に追われている日々です。

『通勤寮』は1962年に「通勤センター原町成年寮」（葛飾通勤寮の前身）として始まり、その後東京都の単独事業を経て、国の事業となった制度です。全国で約130ヶ所まで増えましたが、支援費制度以降の制度改正の中で他の事業に移行したところが続き、2015年4月現在では45ヶ所となっています。

事業の開始当初から、就労を生活の基盤として、知的障害者の「地域生活」に向けた生活訓練の場として大きな役割を果たしてきました。「障害者の地域移行」が大きな課題となっている今こそ必要な事業であり、さらなる充実が求められています。

一方で、「利用者像」も大きく変わってきています。知的障害があるにもかかわらず「愛の手帳」が取得できず「精神障害者手帳」を取得し

ている方（制度上、発達障害は「精神障害」に区分されるため）、児童福祉施設出身者（多くが虐待等の問題を抱えている）等、今まで以上に配慮が求められるケースが増えています。また、「軽度」の障害ゆえの能力的アンバランスがある「社会的重度」といわれる課題もあります。

限られた利用期間と人的な配置であるからこそ、今まで以上に職員それぞれが日々自らの「実践」と向き合い、問いかけながら共有し、その中から必要な見直しに積極的に取り組むこと。そして利用者「一人ひとりの思い（意思）」を実現するために、「支援」と「訓練」のバランスに配慮しながら、「自立と自律」、「権利と責任」等について伝えていく、信頼関係に基づいた運営を引き続きめざしてまいります。

新たな体制でスタートした今年度も残り少なくなりました。私自身、改めて自分の仕事を振り返り、着実な歩みを進めていきたいと思っております。

職員一同、努力してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

新年のごあいさつ

町田市障がい者就労・生活支援センターりんく
つるかわ学園職業準備支援センター センター長

滝島 弘之

あけましておめでとござい
ます。

今年四月、障害者雇用の分野で

は、障害者に対する差別の禁止

【1】及び合理的配慮の提供義務

【2】が発生します。

日々の生活の中で、自分の心の中

に差別する心が湧き出ているなと思

うことがあります。例えば「自分は

他の人よりも経験豊富な人間だ、自

分は重要な人間だ、自分は常に正し

い判断ができる人間だ、自分は誰よ

りも苦労している」・・・等、その

ような思いが「差別の芽」ではない

でしょうか。

世の中には差別する人間と差別し

ない人間がいるのではなく、自分の

中の差別と向き合い努力する人間

と、この努力に気づかない人間がい

るのだと思います。

差別をする人間を蔑視することだ

けでは、差別をなくすことはできま

せん。
差別をする人の心やその心の弱さ

に自分の心を寄せていくことができ
なければ、共感は成り立たないと思
います。

差別を見る目を養うためにも常に

勉強し続け、人間力を高めていきたく

と思います。

本年もどうぞよろしくお願いいた

します。

【1】障害者に対する差別の禁止

募集・採用、賃金、配置、昇進

などの雇用に関するあらゆる局

面で、障害者であることを理由

とする差別が禁止される

【2】合理的配慮の提供義務

募集及び採用時においては、障

害者と障害者でない人との均等

な機会を確保するための措置、

採用後においては、障害者と障

害者でない人の均等な待遇の確

保または障害者の能力の有効な

発揮の支障となつてい事情を

改善するための措置

本年もよろしくお願いいたします。

つるかわ学園相談支援センターこころ 管理者

加藤 真優

昨年は、事業開設から2年目を迎

え、利用者の方の生活状況の変化を

目の当たりにし、生活の質

(QOL: Quality Of Life)を高め

る仕事であると実感した1年でし

た。このQOLの概念は様々な捉え

方がありますが、障害のある方の地

域生活を支援するガイドライン(厚

生労働省)の中では「生活の質の視

点とは、障害者が日常生活や社会生

活のあり方を自らの意思で決定し、

生活の目標や生活様式について、よ

りよい水準のものとしていけるよう

にすることであり、また、本人が身

体的、精神的、社会的、文化的に満

足できる豊かな生活を実現できるよ

う支援していくこと」と記されてお

り、障害のある方を支援する上で基

本的な考え方のひとつとなっていま

す。

このQOLの概念を頭に入れなが

ら、各事業で感じた点を振り返って

みたいと思います。つるかわ学園で

は、利用者の方の高齢化が進み、よ

り緊密な医療との連携が欠かせない

ことを受け、障害に加えて老化が伴

う状態を捉え、現状を維持すること

の意義を考える機会が多くありまし

た。町田通勤寮では、退寮後の多様

化した自立生活の場を考える上で、

町田地域のみならず、利用者の方の

生活圏の資源を把握し、意義のある

情報を提供する必要性を感じまし

た。グループホームでは、現状維持

を希望される方、生活基盤は変えず

に仕事でのステップアップを望まれ

ている方、年齢や将来を見据えて新

たな居住の場の選択を検討されてい

る方、様々な生活環境への変化に対

する対応力の必要性を感じました。

利用者の方に係る様々な状況変化

の中、QOLを高める仕事として、

本事業が求められる役割、本質を認

識し、利用者の方一人ひとりの生活

の質の向上に努めたいと考えます。

本年もよろしくお願いいたします。

年頭のご挨拶

地域生活援助センター
フクシア センター長

市川 嘉

新年あけましておめでとござい
ます。本年もどうぞよろしくお願
い致します。

町田通勤寮より法人内異動で「フ
クシア」赴任してあつという間に2
年が経過しました。

この2年間で特に頭を痛めたのは
人材確保です。毎年利用者が増加し
ていく中で、並行して人材確保をし
ていかなくはなりません。

最近の日本では「売り手市場」が
顕著になり中々人材が集まりませ
ん。特に福祉関係については厳しい
部分があるのが現実です。

失業者が減少することは景気に良
い影響を与えることで歓迎されるべ
き話なのですが、福祉現場としては
厳しくなっているのは否めません。

他の業種のような処遇が出来れば
募集に対する応募はあるとおもわれ
ますが、現実には処遇面でも低めにな
らざるを得ない状況が続いています。

しかし、こんな弱気の考え方は
良いはずがありません。もともと
ポジティブに、そしてあきらめない姿
勢でこれからについて進んでいき
たいと年頭にあたり強く感じました。



これまでの「福祉バザー」から昨
年度より、「つるかわ学園ふれあ
まつり」と名称を変更して開催させ
ていただき、今年で二回目を無事に
迎えることができました。

さて毎年、行事後の会報に書いて
いる「雨」の事ですが、今年も当日
は雨…。数日前までの予報は曇
りとなっていました。当日は朝か
ら雨が降り、終了まで一度も止むこ
とはありませんでした。

しかし、降雨の中、開場前から来
場者の方が列をつくって待つてくだ
さり、その人数は百名を数えていま
した。

雨の対策として、中庭に大型のプ
ルシートを設置しました。その下
をステージとし、多くの団体の方々
に演奏や演舞を披露して頂き、利用
者の方々も大変に喜ばれていました。

また、今年度の新たな試みとして
地域の福祉事業所等に場所の提供を
し、模擬店やそれぞれの事業所で作
られた製品等の販売をしていただけ
るようにテントを準備しました。
雨にもかかわらず予定していた七

団体、すべての方に参加して頂きま
した。各団体の方が販売して頂いた
美しい花や岩手の物産品、豆腐製品、
利用者の方々で作成した素晴らしい
縫製品、焼き鳥、甘酒等はどれも来
場者の方が、楽しく買い物をし、喜
ばれている姿を見て、とても嬉しく
感じました。

この行事は、つるかわ学園の利用
者、職員、ご家族等と有意義に交流
を図り、地域とより結び合えるよう
な企画運営を目指しています。

つるかわ学園の理念、「地域と共
に暮らし地域と共に生き」を愛の
拠点にします」をいつまでも大切に
第三回、四回とこのふれあいまつり
がより充実した内容となるように取
り組んでいきたいと思えます。

最後に、当日お手伝いいただいた
ボランティアの方、地域や各関係機
関の方など、多くの方の誠意とご理
解、ご協力いただきましたことに心
より感謝申し上げます。

また、これからもよろしくお願
い申し上げます。

つるかわ学園を 支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中
にあって、施設も苦しい状況に
置かれています。私達は私達なりに
苦しみの中にあるにも福祉を支
える者として努力を惜しまず頑
張っています。今一步の力の支え
をこつた形で求めるのは本当に
心苦しいのですが、市民の皆様の
小さな善意はやがて大きな力を生
む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支え
る会にご入会し力を添えてくださ
いますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の
会費は、一口年額二千円ですが、
ひとり何回か入っていたくださ
いを歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行
するつるかわ学園の機関誌「つる
かわ」をお送りし、学園の様子を
続けてご報告するとともに、この
人達の幸せを願う者同志としての
親交を深めます。

入会方法

入会して下さる方は、振込用
紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇一〇一七七一九四〇二九
加入者
社会福祉法人 つるかわ学園

**つるかわ学園
ホームページ**

日常のようす、行事のお知
らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!
HP: tsurukawa-gakuen.com